

第3編 学 校 別 研 究

【 目 次 】

沼 田 小 学 校	4 6
沼 田 東 小 学 校	5 0
沼 田 北 小 学 校	5 4
升 形 小 学 校	5 8
利 南 東 小 学 校	6 2
池 田 小 学 校	6 6
薄 根 小 学 校	7 0
川 田 小 学 校	7 4
白 沢 小 学 校	7 8
利 根 小 学 校	8 2
多 那 小 学 校	8 6
沼 田 中 学 校	9 0
沼 田 南 中 学 校	9 4
沼 田 西 中 学 校	9 8
沼 田 東 中 学 校	1 0 2
池 田 中 学 校	1 0 6
薄 根 中 学 校	1 1 0
白 沢 中 学 校	1 1 4
利 根 中 学 校	1 1 8
多 那 中 学 校	1 2 2
利 南 幼 稚 園	1 2 6
薄 根 幼 稚 園	1 3 0

利 南 幼 稚 園

所在地 〒378-0014 沼田市栄町141番地
電話番号 0278-23-1071 FAX 23-1186
園長名 森下 和樹

I 園の経営

1 園の教育目標

『人間性豊かで心身共にたくましい子』

・明るく元気な子 ・友達と仲良く遊ぶ子 ・豊かに表現する子

2 経営方針 【スローガン】 おおきく はばたく となみっ子

- (1) 自己肯定感を育むための主体的活動の充実
- (2) 教員の持ち味を活かした組織的な「チーム保育」の充実
- (3) 心の育成をねらいとした計画的・継続的な活動の実施
- (4) 家庭との連携による基本的生活習慣の確立
- (5) 幼児との信頼関係を築き、安心して園での生活ができる環境づくり
- (6) 教師同士が協力し、互いに指導方法等を高め合い、教師力を高める

3 本年度の重点施策

(1) 一人一人の特性を把握し個に適した保育の充実

- ①主体的活動を意図的、計画的に取り入れ、協同性や思いやりの心、自己肯定感を育む。
- ②幼児の多面的理解をもとに、一人一人の特性に応じた「援助」と「見守り」のバランスを考えた保育の実践。
- ③交流保育を活用し、人との関わりや自分で考え、工夫できる力を伸ばすための支援を行う。
- ④専門機関と連携した支援計画や個にあった目標を設定し、評価と見直しを行うことで質の高い教育支援を行う。
- ⑤読み聞かせ活動を計画的に進め、絵本に親しみながら様々な思いを感じ、自分なりのことばで表現する楽しさを味わえるようにする。【家族で本を読みましょう】

(2) 安全、安心、健康な生活が送れる幼稚園づくり 【セイフティ沼田】

- ①『げんきっこウィーク』や『げんきっこデイ』を計画的に設定し、家庭と連携を図りながら基本的生活習慣の確立を図る。
- ②身近な食物の栽培、収穫を通して食への興味や関心を高めながら健康な体作りを推進する。
- ③定期的な安全点検や業者による巡回点検、遊具点検を確実に行之、その結果を全職員で共有するとともに、改善箇所等の早期対応に努める。
- ④様々な想定による実践的な各種避難訓練を計画的に実施し、危機回避能力を身に付けさせるとともに、安全計画及び危機管理マニュアルの見直し、改善を図る。

(3) 家庭、地域、学校と連携の充実

- ①各たより、掲示板等を活用し、幼稚園の様子や幼児の遊びを通した学びの姿を具体的に知らせることで、園の方針への理解を深めながら信頼関係を築く。
- ②幼・小の『つながり』を意識し、園児、児童との交流活動や幼・小の教員による情報交換や交流を通して小学校への円滑な接続ができるようにする。【幼小中連携】
- ③保育参観や学期毎の個別面談等を通して、家庭における安定した親子関係づくりを支援する。
- ③地域の特色や人や自然、文化等に触れる機会や体験活動の充実を図る。【ぬまた未来創造学】

Ⅱ 園内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

主題
副主題

～研 修 主 題～
少人数保育の中で人とのかかわりを楽しむ幼児の育成
～ 他園との交流を通して ～

幼児の実態との関わり

- ・年中児は友達と同じことをしてみたい！という思いを持ったり、友達と遊ぶ楽しさを感じ取ったりしている。
- ・年中児は友達とイメージを共有して遊ぶのは難しく、教師が互いのイメージをつないでいく援助がまだまだ必要である。
- ・昨年度の年中児は、まだ自分のクラスの友達と遊ぶことで満足している状態で、他園の子に親しみは持つことはできたが、一緒に遊んでいてもすぐに抜けてしまうところがあり、一緒に遊ぶためには教師の援助が多く必要であった。
- ・年長児は仲良く遊ぶが、ままごとで演じる役などについて自分の意見を押し通そうとしたり自分たちで上手く話の折り合いを付けられなかったりする幼児の姿が見られる。
- ・昨年度の他園との交流では、手紙での遣り取りを楽しんだり、互いの園でしているドッジボールや高鬼などの集団遊びを一緒にしたりする中で、遊びの幅や関心を広げていった。

指導の在り方との関わり

- ・他園との交流では、集団遊びを盛りだくさんに準備している時もあった。幼児たち自身はそれらの遊びも楽しむ様子も見られた。経験させたい集団遊びの時間も貴重だが、好きな遊びを見つけて友達と誘い合って遊べるような時間に繋がったら良いと感じた。
- ・先の交流を見据え、前もって幼児に心構えや期待感をもてるような教師の関わりを心掛けたが、業務に追われる中で疎かになってしまったり、やや場当たり的になってしまったりしたこともあった。
- ・異年齢交流の観点では、同年齢で遊ぶことに重点をおく場合と異年齢で遊ぶことに重点をおく場合とでねらいや計画性を具体化して取り組めればさらに良かったと考える。
- ・教師の思いが先行しすぎてしまったところもあるので、ねらいと活動内容とのバランスが大切であると感じた。

2 研修内容・方法

少人数の中で人とのかかわりを楽しめる幼児の育成に向けて、今年度は他園（薄根幼稚園）との交流活動に重きを置き、研修を進めていく。昨年度よりも交流回数を増やし、各園の実態をしっかりと捉え、ねらい・内容をより具体化し、それに合わせた交流活動を計画していく。人とのかかわりを楽しむ力を育むための教師の援助の有効性について保育実践を通して明らかにしていく。

(1) 具体化した目指す幼児像

- ・本園の教育目標「人間性豊かで心身共にたくましい子」の「友達と仲良く遊ぶ子」に重点を置く。
【4歳児 学年目標】のびのびと自分の力を発揮して遊ぶようになる。
【育てたい力】友達とのかかわりを通して、楽しさや葛藤を経験し、互いの良さに気付く。
【5歳児 学年目標】友達と目的や見通しをもち、遊びや生活をするようになる。
【育てたい力】友達と同じ目的に向かって、工夫することや協力し合い活動する楽しさを味わう。

(2) 共通実践する手立て

- ・期ごとに、各学年の人とのかかわりに関する指導計画の見直し・改善を図る。
- ・昨年度からの薄根幼稚園との交流を継続する中で、交流前に各園の育てたい子供の姿を共有し、それに合った具体化した「ねらい」や「内容」を設定していく。
- ・人とかかわる力を育むために、保育実践の中で意図的な場面を設定し、援助・環境構成を工夫していく。
(意図的な場面とは・・・)
 - ・自己発揮し、周囲から認められる場面
 - ・友達の存在や、良さに気付ける場面
 - ・友達と試行錯誤し、活動を展開する楽しさや、共通の目的を実現する喜びを味わえる場面
 - ・互いに思いがぶつかり合ったり、伝え合ったりし、折り合いを付けられる場面
 - ・きまりの大切さに気付いたり、守ったりしようとする場面

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・交流を積み重ねていくなかで、幼児同士の関わりも自然になっている。友達を気遣ったり、励ましたりする言葉もでており、昨年の関係性より、深い関係になっていると感じる。
- ・互いの園の担任でない教師にも、幼児から話しかけたりすることができてきている。
- ・年間を通して月に1回のペースで交流を入れていったことはとても有効であった。

○課題

- ・大人の目が沢山あり、教師の声が多くなりがちになってしまった所もあった。
- ・園の行事が続いて時間の取れず、交流前の事前の話し合いの場が設けられない時もあった。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・教師があえて離れたところで見守ったりしながら、子供に任せる部分について段階を追って少しずつ多くし、幼児たちだけで作り上げていく関係性も大切にしたい。
- ・今後も交流前の職員同士の打ち合わせを円滑に行い、両園の幼児の実態把握と交流内容について共有できるようにする。また、その際に交流時の幼児への指導に関して両園で押さえておきたいことは文字化し、共有しておく。

3 研修計画・経過報告

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.10	・研修主題の検討	○前年度の反省及び今年度の研修内容と進め方について ○幼児の実態の把握と課題検討、テーマの決定 ○研修主題についての基本的な考え方と共通理解 ○研修の内容、方向性について共通理解・検討 ・「幼稚園教育要領ハンドブック」を読み解く。 ・研究構想及び目指す幼児像を図式化する。 ・人とのかかわりを楽しめる幼児を育てるためには、「自分の思いを伝える、友達の思いを聞く、友達の良さに気付ける、自分の良さに気付く、感情やイメージの共有。同じ目的に向かって工夫し、協力できる、おもしろい気持ち、きまりやルールを守る」等の力をつけていくことが重要だと分かった。これらの力を育てるために、環境構成・援助方法・薄根幼稚園との交流方法の実践を通して 探っていくことにする。 ○年間指導計画における人とのかかわりの内容について共通理解、改善・検討。 ○1期の薄根幼稚園との交流内容について振り返り、改善点があれば次回の交流に活かしていく。 ・昨年度から交流の回を重ねていることで、互いの園の幼児の姿に刺激を受けてやってみようとしたり、楽しんだりしようする姿があった。 ○幼稚園教育課程協議会への参加 ・幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について協議する。 ○年間指導計画における人とのかかわりの内容について共通理解、改善・検討。 ・薄根幼稚園との納涼会までの取組について振り返る。行事を通じた子供たちの育ちを共有し、改善点については来年の納涼会につなげていけるようにする。
5.7	・園内研修計画確認	
	・構想図作成	
	・指導計画検討 (1期)	
	・交流内容の振り返り、検討	
6.28	・教育課程協議会	○幼稚園教育課程協議会への参加 ・幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について協議する。 ○年間指導計画における人とのかかわりの内容について共通理解、改善・検討。 ・薄根幼稚園との納涼会までの取組について振り返る。行事を通じた子供たちの育ちを共有し、改善点については来年の納涼会につなげていけるようにする。
7.19	・指導計画検討 (2期)	
	・交流内容の振り返り、検討 (納涼会)	
8.27	・保育実践研究	○実践事例の分析と今後の方向性 (環境や援助の有効性や課題、幼児の変容) 年長：納涼会の看板製作 (友達と同じ目的をもって製作する) ・交流前に教師間で打ち合わせをし、年長同士で共通の目的をもった活動「お店の看板製作」を取り入れる。 教 幼児の考えやアイデアが出てくるような投げ掛け、出てきたアイデアを周囲の幼児に伝えたり、自ら友達に提案したりするなど、意図的な場面づくりや援助に配慮する。 幼 自分の店に必要な物を描いたり、写真を見たり、自分なりのイメージを持って、お店の看板を製作する姿がある。 年中：櫓の飾り作り (両園共通の飾りを一緒に製作し、合同で開催する納涼会を楽しみにできるようにする。) 教 合同保育で行ったサクラランボの受粉や収穫という共通の経
10.8	・実践事例検討	
	・指導計画検討 (3期)	

11.26	・交流内容の振り返り、検討（合同運動会） ・教育課程協議会 ・指導計画検討（４期）	験を活かした作品を幼児に提案できるよう、職員間で相談、材料の準備を進めておく。 幼 共通の経験を製作の題材にすることで、製作過程では２園の幼児同士で色々なやりとりが見られ楽しそうに製作する姿がある。 ○年間指導計画における人とのかかわりの内容について共通理解改善・検討、薄根幼稚園との交流内容について振り返り、次の交流内容を検討する。 ・２園混合チームでは、同じチームになった友達を応援し「○○ちゃん諦めないで～！」と力強い言葉をかける姿もあった。 ○年間指導計画における人とのかかわりの内容について共通理解、改善・検討、薄根幼稚園との交流内容について振り返り、次の交流内容を検討する。 ・発表会に向けた活動を異年齢で一緒に楽しんだり、作り上げたりすることで、下の子を思いやる姿や憧れの気持ちをもつようになる。 ・薄根交流では、教師の援助がなくても互いの園の友達を誘い合い、子供自ら他園の友達に声をかけていく姿が多くあった。 ○年間指導計画における人とのかかわりの内容について共通理解、改善・検討、薄根幼稚園との交流内容について振り返り、次の交流内容を検討する。 年長：運動会の混合チームリレー（同じ目的に向かって協力し合い活動する楽しさを味わう） 教 幼児らに労いの言葉や頑張りを認める言葉、また、集団の中で認め合えるような関わりをもてるよう心掛ける。幼児らが友達の走っている様子がよく見えるようにしたり、友達を応援したりするあたたかい姿を認めたり、このような姿を友達に広めていくようにする。 幼 同じチームで走っている利南の幼児に対して、薄根の幼児が「○○ちゃん諦めないでー！」と力強い応援の言葉をかける。その言葉を聞いた利南の幼児は、とても嬉しそうで、「ありがとう」と感謝の言葉を伝える。 年中：サンタクロースの飾り作り（友達と一緒に作ることを楽しむ。互いの得意なところに気付くようになる。） 教 友達と遊びのトラブルで相談があった時は、各自の思いを聞き、必要な言葉を補うなど繋がりをもてるよう援助をする。互いのことを知っている幼児同士の為、あえて距離を置いて見守る。 幼 サンタクロースの飾りにトナカイをつけようとしていた幼児にトナカイを作ってあげる友達がいた。しかし自分でトナカイを作らなかった為、そのトナカイを「いらない」と返してしまふ。返された友達も、寂しい思いをしていた。暫くすると再び、幼児だけで先ほど作ったトナカイやソリを使って遊びだす姿がある。
12.18	・交流内容の振り返り、検討 ・指導計画検討（５期） ・交流内容の振り返り ・実践事例検討	
1～3	・研修のまとめ ・来年度の方向性の検討	○成果と課題、幼児の変容について ○次年度の研修の方向性、課題検討

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
園 長	森 下 和 樹	教 諭	深 代 美 智 子
教 諭	戸 部 葵	用 務 員	大 竹 秀 男
教 諭	松 井 逸 希		

薄 根 幼 稚 園

所在地 〒378-0064 沼田市善桂寺町78番地
電話番号 0278-23-0651 FAX 番号 0278-23-0588
園長名 小室 昌顕

I 幼稚園の経営

1 幼稚園の教育目標

人間性豊かで心身ともにたくましい幼児

○明るく元気な子（重点目標）○仲良く遊べる子 ○豊かに表現する子 ○進んで取り組む子

2 経営方針

○「幼児の笑顔のために…」園、家庭、地域が協力して子どもを育てる幼稚園

- (1) 友達と関わる中で自他の良さを認めながら、主体的に活動し豊かに育つ幼稚園
- (2) 様々な体験を通して幼児が伸び伸びと自己発揮でき、自己肯定感が持てる幼稚園
- (3) 教師が明るく元気で、学び合い・高め合い・協力し合う、活気ある温かい幼稚園
- (4) 家庭と連携協力し、基本的な生活習慣と社会性の育成、子育て支援に努める、共に歩む幼稚園
- (5) 地域社会や小中学校と協力して、育ちの連続性を見通した連携を進める幼稚園
- (6) 危機管理と安全指導に努め、安全で安心して過ごせる幼稚園

3 本年度の重点施策

(1) 幼児期の豊かな学びを支え、確かな学びが得られる保育の充実

- ① 異年齢保育や利南幼稚園との保育・行事交流を通して、人と関わる力を高めることができるよう援助のあり方を工夫する。
- ② 幼児の興味や関心に即した主体的な活動の中で、自己発揮しながら必要な体験を積み重ね、自己肯定感を感じつつ確かな学びができる環境作りをする。
- ③ 反省・評価、個人記録の蓄積を通し、必要な体験が得られる環境の構成や援助の工夫をする。
- ④ 職員間の連携や保育カンファレンス、研修による多面的な幼児理解を指導力の向上につなげる。
- ⑤ 実践研修を積み重ね、分析、考察を通して保育の充実と指導力の向上を図る。

(2) 健康な心と体を育てる生活習慣の育成

- ① 「早寝・早起き・朝ごはん」を推進し、家庭と連携して健康な体づくりの基となる望ましい基本的生活習慣を確立する。
- ② 食育を推進し、食べ物の興味や関心を高めながら栽培活動や食べる経験を計画的に取り入れる。
- ③ 運動の要素を取り入れた遊びを工夫して、楽しく体を動かしながら運動能力の向上を図る。

(3) 安心・安全の確保

- ① 安全点検を中心に、園内外の環境を整えて安全確保に努め、幼児が安全に過ごせる幼稚園作りをする。
- ② 危機管理マニュアルやアレルギー管理指導表など、安全確保に関わる事項を周知徹底し教職員の意識と実践力を高める。
- ③ 交通安全指導や災害時の避難訓練を通して、安全意識の高揚と危機回避能力を身につけさせる。

(4) 家庭・地域・関係機関と連携した教育活動の推進

- ① 保護者に幼児の育ちや学びを具体的に伝え、園の理解を深め、成長を喜び合える信頼関係作りをする。
- ② 絵本が情操教育に大切なことを知らせ、親子読書の意識を高める。
- ③ 地域の人との交流や利南幼稚園との交流行事を通じて伝統芸能を体験したり、ブルーベリー狩りやりんご狩りなど沼田の自然や魅力を知り、郷土愛を育てていく。
- ④ 小中学校と、互惠性のある交流や、育ちの連続性を踏まえた連携を図り幼児の成長を支える。
- ⑤ 幼小中PTA連携スローガン「子どもは地域の宝物、ほめて叱って励まして、みんなで育てる薄根っ子」を基に、地域の教育力を活用する。

II 園内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研 修 主 題～

主題 豊かな人間性や社会性の基礎を育む保育の充実

副主題 ～地域の色々な人との関わりを通して～

子どもの実態との関わり

- ・昨年度までの園内研修を通して、身近な友達や先生と関わる力が高まっていると同時に園内の異年齢児がつながり育ち合っている環境が整ってきた。
- ・少人数園であることや、家庭においても地域との関わりが希薄化している状況にある為家族以外の人と関わる機会が減り、社会とつながっていく気持ちや人と関わる力が育ちにくい状況にある。
- ・少人数園である為、慣れ親しんだ人間関係の中、関わりを深め楽しんでいる姿はあるが、画一的な関わりになりがちである。

指導の在り方との関わり

- ・豊かな人間性や社会性を育んでいく為には様々な人との関わりを深めると共に地域の自然や文化・伝統に触れ、感動体験を積み重ねていくことが大切である。
- ・日常保育の中で地域の自然や文化・伝統に触れる機会を積極的に取り入れ、家庭と連携して豊かな人間性や社会性の基礎を育んでいく必要がある。
- ・多様性のある関わりをもつには、園外の様々な人と交流できる環境を作ることが必要である。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す幼児像

- ・様々な人と関わりながら生活することを楽しいと感じ、共感する心や思いやりの心をもてる幼児。
- ・様々な感動体験を通して、人と感動を共有し合える人間性豊かな幼児。
- ・地域の自然や文化・伝統に触れることを楽しいと感じ、自分の住んでいる地域社会とのつながりを楽しむことができる幼児。

(2) 具体化した目指す幼児像を達成するための共通実践する手立て

- ・地域の教育力を積極的に活用し、文化・伝統を継承する地域の方を園に招き、見たり、体験したりする機会を増やしていく。地域の人と楽しく触れ合いながら体験していく中で、より様々な人との関わりを深めていけるようにする。
- ・日常保育の中に、地域の歴史や自然に触れる機会を意図的に計画し、自分の住んでいる地域に親しみをもち、楽しく関わっていけるようにする。同時に家庭にも地域の魅力を発信していく。
- ・今年度も利南幼稚園との交流を継続して行い、様々な友達と生活や遊びを共に楽しんだり、園行事を合同で協力して行ったりしていく。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・地域の様々な人と関わる場面を計画し、「じゃがいも栽培」や「フラダンス体験」「沼須人形紙芝居体験」等の関係者に協力していただいたことで、地域の文化・伝統を身近に感じることができたと共に社会性も育まれてきたことを感じている。
- ・利南幼稚園との交流行事として、「さくらんぼ受粉体験」や「さくらんぼ狩り」「ブルーベリー狩り」「ふるりの魚稚魚放流」を体験することができ、沼田市の自然に触れる機会を多くもてたことで、自分の住んでいる地域に興味や関心が広がり、利南幼稚園の友達とも感動体験を共有できた。
- ・利南幼稚園の友達と協力して行事を行ったり、ちぐさこども園の友達とも好きな遊びを楽しんだりする機会をもてたことで、様々な性格や考え方をもった友達に自分から関わることを楽しめるようになった。

○課題

- ・幼児の発達段階を考えると、様々な体験活動を通して豊かな人間性や社会性の基礎が育まれることを感じる。計画的な体験活動の実施とその為に必要な協力者への誠意あるアプローチに努めることが今後も大切であると考えている。

- ・利南幼稚園との様々な交流の持ち方において、各園の考え方を尊重し、事前の話し合いをもって調整していくことが大切である。
- 今後の取組
 - ・年長児は就学に向け、年中児は進級に向けて保育内容を計画していく時期であるが、引き続き意図的・計画的に異年齢保育の充実を図っていく。
 - ・来年度は、年長児1学年になることを考慮し、利南幼稚園との合同保育も視野に入れ、新年度から充実した生活を送っていけるよう、先を見通した保育を意識していく。

Ⅲ 研修計画・経過報告

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4. 10 14 22 23	研修計画、内容の検討 保育実践研修   	○幼児の実態や課題、研修の方向性、目指す幼児像について ○地域の人との交流（じゃがいも植え：宮澤さん） ・じゃがいもの畑を園内にしたことで、じゃがいもの先生（宮澤さん90歳）と昨年より多く関わることができている。宮澤さんがじゃがいも畑を耕す姿をみて「宮澤さんすごいね！」と親しみをもっていた。 ○地域の特徴ある自然に触れる（さくらんぼ受粉体験） ・「おいしくなあれ」と収穫に期待をもち取り組んでいた。 ○地域の特徴ある自然に触れる（薄根の大桑・石墨の棚田） ・大桑の木を見上げ「大きな木だね」と驚いていた。1500歳の木、桑の木の神様という話を真剣に聞いていた。 ・後日、大桑のパンフレットを掲示しておく、「葉っぱが生えた時また行きたいね」と友達と感動を共有し合っていた。 ・国指定の天然記念物、薄根の大桑を知らない保護者が多い。 ・棚田では、「田んぼが階段みたいだね」とこれから田植えが始まることを楽しみにしていた。
5. 15 24	保育実践研修 	○利南幼稚園との交流（ALTとの交流、薄根仲良し文庫読み聞かせ） ・利南の友達と楽しい行事を共有する楽しさを感じられた。 ○地域の特徴ある自然に触れる（ふるさとの魚放流） ・「ヤマメの赤ちゃんかわいいね、元気で育ってね」と近くの川にいる魚の種類に関心をもつことができた。
6. 4 5 13 27	保育実践研修    	○ちぐさこども園との交流 ・初対面の友達と関わり、つながっていく喜びを感じられる交流となっていた。 ○地域の人との交流（フラダンス体験） ・例年鑑賞することが主だったフラダンスだが、体験中心にしたことで、フラダンスをより身近に感じる事ができた。 ○地域の特徴ある自然に触れる（さくらんぼ開園式） ・さくらんぼの成長を喜び、収穫を楽しむことができた。 ○地域の特徴ある自然に触れる（薄根の大桑・石墨の棚田） ・大桑の葉が茂る頃、棚田の田んぼに水がはった頃に再度訪れたことで、幼児の感動も大きいものとなった。
7. 12 16	保育実践研修  	○利南幼稚園との交流（交流夏祭り） ・合同開催したことで、参加人数も増え、大いに盛り上がった楽しく賑やかな夏祭りを経験することができた。 ○地域の伝統文化に触れる（沼田祭りお囃子体験） ・沼田祭り開催前にお囃子体験や天狗面の見学ができたことで、地元の沼田祭りに対しての関心が高まり、家族と目的をもって参加できた。

7. 17		○地域の人との交流（じゃがいも掘り：宮澤さん） ・宮澤さんと一緒に収穫をし、一緒に食べた。宮澤さんへ感謝の気持ちや親しみの気持ちが高まった。
8	保育実践研修 	○地域の特徴ある自然に触れる（ブルーベリー狩り、ぶどう園開園式） ・果物を育てた方々と触れ合いながら味わうことができたことで幼児なりに感謝の気持ちをもつことができた。
9. 4	保育実践研修 	○地域の人との交流 （カレーパーティー：宮澤さん、薄根仲良し文庫招待） ・宮澤さんだけでなく、お世話になっている方々を招待し自分達で作ったカレーを喜んで食べてもらえたことで、人と関わりをもつ楽しさを感じることができた。
10. 5 18 25	保育実践研修   	○利南幼稚園との合同運動会 ・大人数で行えたことで、競技の幅も広がり、競い合う楽しさを感じることができた。 ○利南幼稚園との交流遠足 ・秋の遠足を利南と同じ場所にすることで、更に期待が高まり興味をもって沼田公園を探索したり、お弁当を食べたり、譲り合いながら遊具で一緒に楽しむことができた。 ○地域の特徴ある自然に触れる（ふるさとの魚釣り） ・5月に利南の友達と一緒に放流したヤマメの稚魚が成長した姿と一緒に喜び、魚つりをして味わう経験ができた。
11. 1	指導主事訪問	○研修内容について指導助言を受け、今後の研修に生かす。 ・昨年度までの行事や遊びを中心とした異年齢交流から、今年度は地域の様々な人に対象を広げることができている。ぬまた未来創造学に重なる取り組みでもあるので継続していく。 ・様々な人との交流や体験は、対象との出会わせ方や前後の活動とのつながりを工夫していくことが幼児の成長に繋がる。
12. 12 12. 17 18	保育実践研修     	○利南幼稚園との交流（ALT との交流、薄根仲良し文庫読み聞かせ） ・ALT の先生と触れ合いながら、クリスマスの制作を一緒に楽しむ時間を計画したことで、様々な友達のアイディアに触れながら楽しむことができた。 ・関心があるクリスマスの内容で制作やゲームを行えたことで、利南の友達やALT の先生と楽しく関わることができた。 ○薄根中学校3年生との交流（家庭科保育実習） ・交流を予告し期待を高めておいたことで、大勢の中学生と関わりを楽しむことができ、中学生に感謝の気持ちを込めてお礼のプレゼントも作ることができた。
1	研修のまとめ	○成果、課題、今後の取り組みについて ・地域の色々な人との関わり、体験活動を通して、人と関わることや地域とつながることの楽しさを十分味わうことができた。来年度は更に園児数が減少するが、幼児が主体的に取り組むその後の生活・遊びに生かせるような体験を取り入れ、幼児の成長につなげていきたい。

<職 員 一 覧>

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
園 長	小室 昌顕	教 諭	磯貝 理恵 北野 法子	用務員	斎藤 澄夫